

町政を問う

今回の定例議会でも一般質問をさせていただきます。

- 一、サツマイモ資料室の設置について
 - 二、地域資源の活用について
 - 三、教育行政について
- の3項目ですが、紙面の都合上主要な質問の要点のみをダイジェストでご報告します。

■サツマイモ資料室の設置について

林 日本で唯一の川越のサツマイモ資料館が6月1日閉館した。サツマイモ文化の情報発信拠点としての役割や経済効果も大きかった。

また、入間市のお茶の博物館等各自自治体は、その地域の産業、文化、歴史の中で特化した博物館を目指し成果を上げている。

三芳町もサツマイモの産地として、今後の歴史民俗資料館のあり方も考え、先ずは、サツマイモ資料室を設置し、秋には旧島田家にて特別展示をしてみたらどうか。

生涯学習課長

資料室については、現資料館の中ではスペースの問題、人的配置などすぐには難しいが、今後、近世開拓史資料館の代替施設の中で検討していく必要があると考える。

特別展示については、期間限定で展示内容によっては可能であると思っている。



歴史民俗資料館内のサツマイモ関連の展示



屋根葺き替え中の旧島田家とサツマイモの苗床



世田谷区の「日本語」教育特区の取り組み(区役所にて)

◆解説

近世開拓史資料館が、主に埼玉県の財政的な理由で建設計画が白紙となり、今後、埼玉県と町で協議されていく。現在、竹間沢にある歴史民俗資料館は、内容的に三富開拓にかかわる近世開拓史的な展示も4割ほどを占めている。

各自自治体は、それぞれの文化、歴史、産業等に特化したオリジナルな博物館を作り、来館者が増加している。三芳町も歴史文化の保護・継承、施設の活用と充実のために、財政面も含めゼロから博物館行政のあり方を考える時ではないだろうか。

三芳町は、①現在も川越いもの主な産地。②サツマイモに関する畑作農具等文化財や展示資料がある。③専門的な人材もいる。これら恵まれた環境からサツマイモ資料館の前提となる、サツマイモ資料室の設置を先ずは提案させていただいた。

川越のサツマイモ資料館が閉館したことで、それに代わり情報の収集、発信の拠点となり、そのことが町おこし、まちづくりの核となりうる可能性を秘めていると考える。今がチャンスであると考える。